

令和7年度 府中市立府中第一中学校 学校経営計画

1 目指す学校像

(1) 生徒も教職員も生命の尊さを深く理解し、安全で安心して生活できる学校

- ①生命を尊重する視点、差異を認め合う視点、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めていく人権的な視点、を生徒も教師も共有する。また、災害や感染症等に対する危機管理体制を確立するとともに日常の安全指導の充実を図る。

(2) 学校生活において一人一人の生徒を大切にする理念が貫かれ、生徒中心・生徒第一の視点に立った教育活動が力強く実行されている学校

- ①一人の生徒を大切にし、状況に応じて対応する学習指導、生活指導、進路指導の推進を図る。
- ②生徒のために教師がいるとの自覚の下、教師中心ではなく生徒中心の教育活動を充実させていく。

(3) 生徒の主体性が発揮され、生徒の豊かな人間性や内発的な能力を開花させることができる学校

- ①学習指導では、授業において話し合い学習などの協働的な学習を取り入れる。
- ②生活指導では、各種の行事や委員会活動における生徒の主体的な活動を推進するとともに、自己決定の場の設定や共感的な信頼関係を通じた自己指導能力の育成を図る。

(4) 専門性の高い教員の指導による質の高い教育活動が提供され、生徒が学ぶ喜びを実感できる

- ①高い専門性に基づく学習指導
- ②質の高い教育相談や特別支援教育の推進
- ③関係機関との効率的な連携による重層的な支援 などを通して、授業や行事、係活動や委員会活動などで楽しく学ぶことのできる学校を目指す。

2 中期的目標と方策

1 に示した「目指す学校像」を実現するため「生徒や保護者・地域に信頼され、向上心に満ちた教師が集い、相互に切磋琢磨しあう一体感のある教師集団」となるよう教員の意識等を高め以下のことを推進する。

<教師像>

- ①生徒の人権を尊重しながら、言葉を大切にし、常によりよい教育活動を目指す。
- ②他教科の指導にも関心をもち、自らの教科指導にいかす。
- ③生徒がねらいを理解し、主体的に取り組むことができる教育活動を展開する。
- ④組織の一員としての自覚をもち、教育公務員として適正な考えと態度を身につける。

<教師集団>

- ①互いの良い点を認め尊重しながらも、課題を指摘しあえる集団
- ②働き方を改善する意識をもち、仕事にメリハリをつけることができる集団
- ③言葉や表現を大切に作る集団
- ④困難な状況にあっても、なすための知恵に時間を使う集団
- ⑤子育て等に取り組みながらでも学級担任ができる集団

3 今年度の取組目標

- (1) デジタルを活用したこれからの授業の在り方について令和 6 年度の実践研究をもとに精査・改善を図る。
 - ・各教科等の教育活動において府中市の推進するグランドデザインの具現化を図るとともに、発見・対話・決定・表現する過程においてデジタルを効果的に活用する。
- (2) 自他の生命を尊重し、いじめを許さない人権教育や道徳教育を推進し、豊かな心の育成を図る。
 - ・「特別な教科 道徳」の充実を図るとともにいじめの解消率を 100%にする。
- (3) 毎日の授業では、習得・活用・探究の過程の教育的意味について理解し、個人での思考、グループ等での協議などを通して、生徒が主体的に問題解決に取り組む学習過程を計画的に導入する。
 - ・タブレット等を活用し、他者参照や情報共有を通して判断・決定・修正に粘り強く取り組む態度を育成するとともに情報について確かめる態度を育成し、情報活用能力の伸長を図る取組を推進する。
- (4) 全校の生徒を全校の教員が見守り育んでいく生活指導を推進し、生徒の自己指導能力を育成する。
 - ・教育相談的な手法や生徒に寄り添う生活指導に徹する。また、生徒による自己決定の場を数多く設定するとともに共感的人間関係の構築、自己存在感の育成を通して生徒の自己指導能力を育む教育環境を構築する。
 - ・生徒会を中心に昨年度改訂した校則と学校生活の状況について、振り返り検討させ、より充実したものへと改善する取組を促進する。
- (5) 生徒一人一人の個別のニーズに対応して効果的な支援を行うため、特別支援教育の充実を図る。
 - ・週 1 回の校内委員会を活性化させ、生徒一人一人のニーズを明らかにしたうえで効果的な支援の在り方を協議し実行していく。
 - ・けやきの森学園と連携し、校内の特別支援教育に関わる理解・啓発を推進し、生徒に対する支援の充実を図る。
 - ・通常の学級と K 組との交流及び共同学習の推進を図り、生徒間での差異を認め合う教育環境を構築する。

- ・授業や行事への取組の中で、時間の構造化や空間の構造化を図り、教育活動におけるユニバーサルデザイン化を積極的に推し進める。
- (6) タブレット等のＩＣＴ機器を活用した教育活動に積極的に取り組んでいく。
- ・３年間の見通しをもって、校内におけるＩＣＴ教育の推進を図る。今年度は、全教員による話し合い学習におけるタブレットの活用を目指して授業改善に取り組む。
- (7) 集団としての力を一層高めるため、運動会や合唱祭、校外学習などの行事を生徒主体で企画・運営する。
- ・生徒による行事の企画立案や運営主体を生徒に置き、生徒中心で学校行事等が営まれるよう、校内体制を確立する。
- (8) 学校や学級に対して適応が難しい生徒のため、サポートルームや教育相談機能を充実させ支援体制を整備する。
- ・不登校生徒に対する効果的な支援を実行するために、アセスメントシートを作成し、個々の生徒の実態を明らかにしたうえで、複数の教員による組織的な対応による効果的な登校支援を行っていく。
 - ・不登校巡回拠点校としての強みをいかし、情報共有と多角的な対策の強化を図る。